

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) タカサキケイザイダイガク	フリガナ) チイキセイサクガクブ	フリガナ) サトウキミトシゼミナール
高崎経済大学	地域政策学部	佐藤公俊ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) ニコチーム	フリガナ) ヨウ カレイ	4人	無
nico チーム	楊 嘉麗		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

研究テーマ (発表タイトル)

メディアスクラムをなくすために ～分析と提言～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

メディア研究には様々なものが存在する。特に集団的過熱取材を指すメディアスクラムもメディア研究対象の一つであるだろう。このメディアスクラムは事件・事故関係者の生活環境をメディアが覆い尽くし社会生活を妨げることである。メディアスクラムが起り続けているのはなぜか。本研究ではメディアの声明・見解、事例分析を通じて原因を突き止める。その上でメディアスクラムを対処するための提案を行う。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

メディアはメディアスクラムの対応策を出している。取材対象者の心情や生活環境への配慮など、記者が注意すべき点が記されている。それにもかかわらず、メディアスクラムは起り続けている。以上のことから、現行の対応策は機能していないのではないかと、いうことを問題提起とした。

3. 研究テーマの課題

私たちの課題は、メディアスクラムが発生するシステムを突き止め、今後のメディアスクラムの対処に有効な提案をすることだ。

はじめに、事例分析を行いメディアスクラムが起きるの2つの要因を発見した。1つ目は取材する側とされる側に力の差が存在することだ。メディアは個人の生活環境を取り囲む力を持っている。現場に待ち伏せしている記者から逃れることは難しい。2つ目は取材の激しい競争の存在である。どこよりも早く、新しい情報を求めるためにメディアの行動は時に激化することがわかった。

次に、事例分析で発見した2つが発生するシステムを考察した。1つ目の要因にメディア業界内で問題解決を終わらせていることが明らかになった。日本新聞協会、日本民間放送連盟、日本雑誌協会がそれぞれメディアスクラムへの対処に努めているが、あくまでもメディア業界の視点で解決され、被害者の意見が反映されにくいシステムであることがわかった。2つ目に、裁定に強制力がなく、取材の激しい競争の抑止力として機能しないシステムであることがわかった。それぞれの機関が協議し、裁定を決定するという役割を持つが、裁定の内容と裁定違反等に罰則を設けていないのである。

以上を踏まえた提案を行う。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちは問題解決のために『プレス・オンブズマンと全てのメディア対象の報道評議会の設置』を提案する。プレス・オンブズマンは法律家やジャーナリストから選ばれ、市民の代理として報道を常時モニターする。報道評議会とは、メディア業界・法律家・一般市民の代表で構成される組織である。この2つを設置することで、報道評議会に市民の参加が可能となり、また裁定における強制力も期待できる。他に期待できる効果としての1つ目はメディアスクラムに限らず、メディアによる他の人権侵害への対応である。2つ目は、メディアと一般市民の争いを斡旋することである。

このプレス・オンブズマンと報道評議会はスウェーデンの事例をもとに作成した。ここでスウェーデンの事例と私たちの提案の違いを述べる。

スウェーデンの事例の場合、審議の場はメディアの種類ごとに違う場所が設けられている。しかし、私たちはメディアの種類にこだわらず、全てのメディアを対象とした報道評議会の設置を提案する。全てのメディアを対象とする理由として、メディアスクラムの被害防止には各メディアの一致した行動の必要性が挙げられる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

文献の読み込みと、事例どうしの比較を中心に研究を進めた。メディアの性質、システムの要因を調べるために数種類の文献を読み合わせ、ホームページ（日本新聞協会・日本民間放送連盟）などを活用した。事例分析の際は、共通点と相違点に注目しながら比較を行った。研究中に注意したことは、一つの見解に偏らず、広い視点で分析を行ったことだ。

6. 結果や今後の取り組み

今回の研究で、メディアスクラムを防ぐためには「強制力」と「外部からの視点」が必要であるということがわかった。しかし、プレス・オンブズマンと報道評議会の設置が日本で実現可能なのか検証が不十分である。プレス・オンブズマンと報道評議会はスウェーデンの事例を用いたものである。今後は、スウェーデンで実現した社会的要因を調べ、日本の情勢と比較し実現可能性を検証する。

7. 参考文献

- 日本新聞協会「集团的過熱取材に関する日本新聞協会編集委員会の見解」
- 日本民間放送連盟「集团的過熱取材問題に関する民放連の対応について」
- 日本雑誌協会 HP
- 朝日新聞 2009/3/25
- 日本経済新聞 2006/1/16, 2007/1/12, 2016/6/8
- 梓澤和幸「報道被害」
- 講談社「現代ビジネス」2014/4/24

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください